

1 部

学習サポート

3 / 31 ~ 5 / 9 の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着でお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2013』1部 p. 31~37に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
5月科目修了試験	レポート・ 申込みハガキ	4月24日(水)
春期スクーリングⅢ (4/27~5/12)	申込みハガキ	4月9日(火)
春期スクーリングⅣ (5/17~6/2)	申込みハガキ	4月25日(木)
オンデマンド・スクーリング	TFUオンデマンド 画面上申込み	4月8日(月)正午ほか 本冊子 p. 42表参照
特講・福祉心理学15 履修登録・スクーリング申込み	履修登録用紙	4月30日(火)
特講・社会福祉学5・6 履修登録・スクーリング申込み	本冊子巻末申込用紙 または履修登録用紙	5月13日(月)
単位互換協定にもとづく認定単 位スクーリング資料請求締切	p. 37~40参照	4月5日(金)
単位互換協定にもとづく認定単 位スクーリング出願締切		4月15日(月)

	受付日
<p style="text-align: center;">レポート</p> <p>(レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)</p>	<p>4月4日(木) 4月16日(火) 4月26日(金) 5月9日(木)</p>

スクーリング受講者専用別レポートは決められた期限までに提出することが必要です。

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締切日	備考
<p>★■社会福祉援助技術実習指導B-1 +★■社会福祉援助技術演習C-1 スクーリング受講申込み</p>	4月1日(月)	(注)
<p>★■社会福祉援助技術実習指導 B-2 スクーリング受講申込み</p>	4月1日(月)	『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「★■指導B」 p. 153~156
<p>★■社会福祉援助技術演習C 1単位めレポート (スクーリング事前課題)</p>	4・5月受講希望者 →4月8日(月)	「★■演習C」 p. 143~148 「◆指導」
<p>★■社会福祉援助技術実習指導B 課題1 ◆社会福祉援助技術現場実習指導 課題1-① (実習計画案)</p>	4月15日(月)	p. 198~200 +『試験・スクーリング 情報ブック2013』 p. 33~35
<p>◆社会福祉援助技術現場実習指導(事前) スクーリング受講申込み</p>	4・5月受講希望者 →4月1日(月)	
<p>★■社会福祉援助技術演習C (分割型)スクーリング受講申込み (実習免除者・来年度以降科目 等履修生での実習受講希望者)</p>	4月1日(月)	『With』89号 p. 90 ※『With』89号 巻末の申込用紙 にて申込みください。

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締 切 日	備 考
◆★精神保健福祉援助演習 1 単位めレポート (スクーリング事前課題)	6～7月受講希望者 →4月15日(月)	(注) 『レポート 課題集 2013(社会福祉編)』
◆★精神保健福祉援助実習(事前指導) スクーリング受講申込み	5～7月受講希望者 →4月1日(月)	「◆★演習」 p. 234～239
◆★精神保健福祉援助実習(事後指導) スクーリング受講申込み	7～9月受講希望者 →4月8日(月)	「◆★実習」 p. 240～250 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2013』
◆★精神保健福祉援助実習(事前指導) 課題1-① (実習計画案)	5/25受講希望者 →4月24日(水)	p. 36
■精神保健福祉援助演習A スクーリング受講申込	6～7月受講希望者 →4月30日(火)	『レポート 課題集 2013(社会福祉編)』 「■演習A」 p. 230～233
■精神保健福祉援助実習A 受講申込	25年度実習受講希望者 →4月30日(火)	本冊子 p. 71～72 参照

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締切日	備考
<p>教育実習の事前事後指導 障害者(児)教育実習の事前・事後指導 実習事前課題レポート</p>	<p>3月受講済者 →4月12日(金) ※5月実習開始者 は4月3日(水)</p>	<p>(注) 『レポート課題集 2013(心理・教職編)』 「教育実習」 p. 174～177 「障害者実習」 p. 245～250 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2013』 p. 37</p>
<p>教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書(・個人調 査票のコピー)提出</p>	<p>5・6月実習開始者 →4月15日(月)</p>	<p>※事前指導受講済 者のみ対象</p>

■その他

●卒業研究

- ・申込締切(3月卒業希望者) 4月5日(金)

●正科生(4月生・進級者)

- ・学費納入期限 3月31日(日)
- ・休学・復学届提出期限 3月31日(日)

●科目等履修生(4月生)

- ・継続申込締切 4月10日(水)
- ・学費納入期限 4月20日(土)

ご卒業おめでとうございます

教員 MESSAGE

通信教育部部長・教授 寺下 明

晴れて東北福祉大学通信教育部を修了・卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。大学通信教育は卒業するのが難しいとはよく言われるところです。皆さんの多くは、本来の仕事をもちながら、あるいは、家庭で子育てや家族の介護をしながら、通信教育の課程で学ばれました。入学以来今日まで、一言では言い尽くすことのできない困難があったこととお察しいたします。

そんな中で、初志を貫き、卒業まで到達された皆さんには、そのたゆまない努力と研鑽に対して、敬服いたします。それに加えて、これまで皆さんを支えてくださったご家族や、周りの方々にも敬意を表しますとともに、心よりお慶びを申し上げます。

とはいえ、皆さんがこれから歩みだそうとしている社会の情勢はきわめて厳しく、課題が山積しています。まず、今の日本の財政は、きわめて厳しい状態にあり、これからの社会保障を考えると、果たして財政再建は可能なのか、見通しが立たないところがあります。また、少子高齢化が急激に進むことによって、年金の負担が増えることや労働人口が減ることも知られています。産業構造の面でも地方の空洞化にとどまらず、企業の生産現場の海外移転によって、日本全体の産業空洞化が進むことが危惧されます。貿易収支についても、予断を許さない状況が今後も続いていきそうです。

一方、東日本大震災から2年が経過しました。しかし、今なお過酷な状況が続いております。この大震災と福島原子力発電所の事故がもたらした惨禍からの復興には、これからも長い年月がかかるだろうと思います。本学も、支援活動やボランティアとともにあらためて、危機に対応できる力

や、減災に向けての取り組みを多くの皆さんとともに進めています。

東日本大震災のあまりにも悲惨な事態について、時には、大学の抛って立つ知識や学問というものが何をできるのか、自問し、無力感に陥ることもありました。この震災と事故が今後のわたしたち生活や文明のあり方どのような変化をもたらすか、わたしには想像すらできません。それでも、大きな変化の時代にこそ、学問と教育とを通じて、新しい価値観が生まれ、より民主的な社会が作られていくことを信じています。

21世紀は、知識基盤社会であるといわれてきました。このことを意識しながら、本学通信教育部では、学びについて、すぐに役立つ知識やスキルに特化することよりも、深く考えることを重視してきました。学問を単に解説し伝達するだけではなく、徹底して考えることによって、パラダイムの転換を図るような柔軟な思考力と創造力を身につけてもらうよう努めて参りました。

通信教育は、自ら主体的に学ぶ自学自習が基本です。このことは大きな意義もっています。それは、自分の頭でものを考えることにつながるからです。しかし、そうはいつでも、変化し続ける社会にあっては、物事の本質が何であり、何が正しく、何がそうでないのかを判断するのは大変難しいことです。考えが独りよがりにならないために、印刷教材やインターネットなどさまざまなメディアをブレンドすることによって学んできました。さらに、スクーリングを含め、教員や学友との交流やつながりによって、これまでになかった知を体得することもできたことと存じます。

先行き不透明なこれからの時代は、ますます学問が重要になります。学問が蓄積してきた知識は膨大です。それは広いばかりではなく、大変深い、さらにはたいへん厳しいものであります。寺田寅彦の言葉に、「ものを怖がらなさすぎたり、怖がり過ぎたりするのはやさしいが、正当に怖がることはなかなか難しい」というのがあります。ものごとの本質をしっかり見つけ、正しく理解することの大切さを指摘したものです。結局、これ

からも、物事の本質や大きな動きを見極め、問題を解決するには、考える方法としての学問に頼るしかないように思えます。

卒業を意味する graduation の語源は、ラテン語の gradus 一歩踏み出すという意味だそうです。卒業を新たな出発と意識したいと思います。修了生・卒業生のみなさんは、これで一つの区切りをつけ、本学での学びは一旦終了することになります。しかし、生涯にわたる学習は、これからも続いていくものと思います。と同時に、今日からまた新しい目的にむかって、再び、学び・学び直しの生活が始まることでしょう。皆さんが本学通信教育部で学んだ学問の基礎の上に立って、生涯学習し続けることによって、ものごとの全体的な動きと、その底流にある本質を見定めていただきたいと思います。

皆さんのご健康とご活躍をお祈りしております。

あらためて、ご卒業おめでとうございます。